

国民保養温泉地・鳴子温泉郷 を卒業研究の対象に！

國學院大學観光まちづくり学部 梅川ゼミ

本間千尋

小勝菜々子

目次

① 鳴子温泉郷の概要

② 活動紹介

- ・ 温泉地における共同湯に関する研究【本間】
- ・ 鳴子温泉郷におけるウェルネスツーリズムに関する研究【小勝】

③ 総括

鳴子温泉郷は10種中7種の泉質を有する温泉地。湯治・観光・生活が共存する



①鳴子温泉 ②東鳴子温泉 ③川渡温泉 ④中山平温泉 ⑤鬼首温泉

歴史

平安時代に開湯したとされ、『延喜式』に鳴子が記録されている。江戸時代には奥州街道の宿場町として発展し、湯治宿が整備され、農閑期の長期逗留文化が定着。

泉質

全体で約370本の源泉数を誇り、泉質名の11種類のうち8種類が存在する。

5つの地域の湯治

各地区には共同浴場や自炊湯治宿が分布し、長期滞在型の湯治利用が行われている。川渡温泉、中山平温泉、鬼首温泉は「奥鳴子・川渡温泉郷」として1960年に国民保養温泉地に指定されている。

平安時代から湯治文化が広がり、草津や箱根も時代の流れとともに変容している

奈良

天皇温泉の御幸

- ・ 596年 聖徳太子が道後温泉へ
- ・ 玉造温泉は治癒の「神湯」
- ・ 7世紀には天皇や皇族が白浜温泉へ

平安-室町

湯治が広がる

湯治が公家、僧侶、武家などに広まる

江戸

庶民へ普及

- ・ 転地療養のほか物見遊山も兼ねた
- ・ 長期滞在から一夜湯治へ
- ・ 箱根、熱海が人気に

明治

保養観光に

温泉は行政の管理下保養地として活用へ

大正

娯楽施設登場

- ・ 湯客の娯楽に宝塚唱歌隊が登場
- ・ 別荘開発

昭和

観光目的地に

- ・ 交通網整備で沿線の温泉が大衆化
- ・ 戦時中は傷病兵の療養地に

2. 主要な温泉地における湯治

箱根十七湯



出典：筆者撮影

箱根の湯治は、東海道の宿場文化と結びついた保養的性格をもち、旅の途中で心身を整える短期滞在型で発展。現代では、観光地として入浴そのものよりも食べ歩きや景観を活かした滞在体験が重視されている。

草津温泉



出典：筆者撮影

草津の湯治は、強酸性泉の高い治癒力を背景に、入浴法や生活作法が体系化された療養文化。現代では、湯畑を中心に草津温泉街が広がり、浴衣を着てそぞろ歩きをする若者で賑わっている。

温泉地における共同湯に関する研究

ー新たな交流の場としての可能性ー

國學院大學 観光まちづくり学部 梅川ゼミ

本間千尋

研究の背景

背景

近年、観光客数や宿泊施設数の減少が進み、**温泉地の衰退**が課題

かつて**共同湯**は温泉地の中心であり、
地元の人々や湯治客の**交流の場**であった



内湯化

共同湯での**交流機会は減少**



交流の場が温泉地活性化に寄与する可能性

仮説

- ・ 共同湯での**観光客と住民の交流**が温泉地のひとつの魅力になるのではないか
- ・ 共同湯が**温泉地の新たな交流の場**として位置づけられるのではないか

鳴子温泉郷の共同湯の概要



① 滝の湯



② 早稲田栈敷湯



③ しんとろの湯

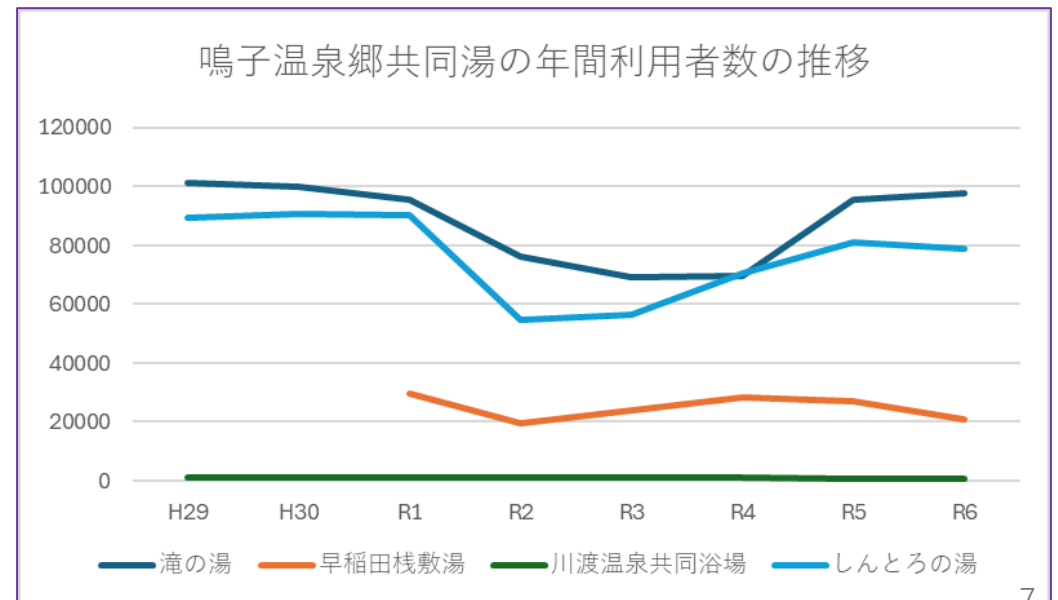


④ 川渡温泉共同浴場

出典：筆者撮影



出典：地理院地図をもとに筆者作成



出典：本研究ヒアリングにより筆者作成

鳴子温泉郷における共同湯の実態（１）

ヒアリング先

- ・ 滝の湯保存会
- ・ 鳴子まちづくり株式会社
- ・ 準喫茶カガモク
- ・ 有限会社しんとうの湯

共同浴場名	入浴料		営業時間	運営	その他
滝の湯	一般	大300/小100	7:30-21:00	滝の湯保存会	
	特別会員	利用頻度により料金変動			
	会員	月400	21:00-〇		
早稲田栈敷場	一般	大660/小330	9:00-21:30	鳴子まちづくり株式会社	貸切湯あり
	組合員	月1650			
	会員	月2200			
しんとうの湯	一般	大500/小250	9:00-20:30	有限会社しんとうの湯	
		月2750・10回1100			
川渡温泉共同浴場	一般	大300/小100	9:00-17:00	川渡温泉浴場組合	料金箱設置
	会員	月1000	17:00-〇		

出典：本研究ヒアリングにより筆者作成



① 滝の湯



② 早稲田栈敷湯



③ しんとうの湯



④ 川渡温泉共同浴場

出典：筆者撮影

地域とのつながり

鳴子温泉郷における共同湯の実態（2）

〈共同湯利用者アンケート調査〉

- * **目的**：共同湯利用の実態、利用者意識を把握するため。
- * **場所**：滝の湯・早稲田棧敷湯・しんとろの湯・川渡温泉共同浴場 4か所
- * **期間**：7月10日(木)～7月31日(木) 3週間
- * **方法**：アンケート用紙・Googleフォーム

* 現地ヒアリング調査（滝の湯）：

7月11日 9:00～11:00

7月12日 14:30～18:30

- ・ Facebook「大好き！鳴子温泉郷」
- ・ ゲストハウス「NAAARU」
- ・ 飲食店「菅原分店765」

でアンケート告知

回答数
131件

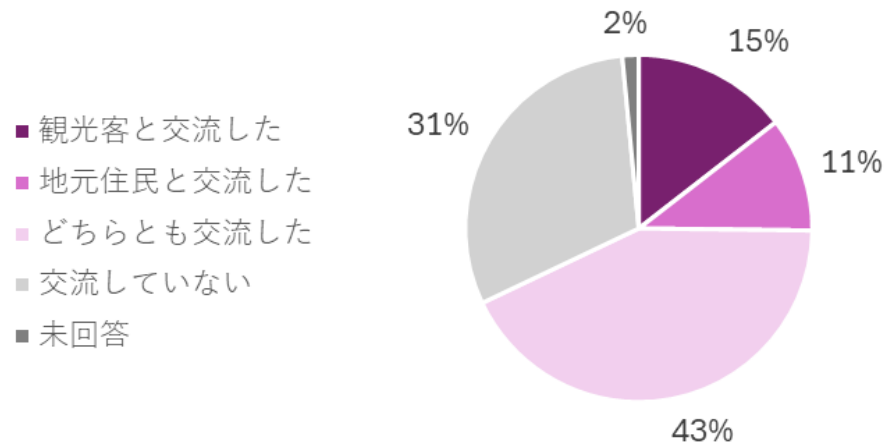
▲アンケート用紙表裏



▲アンケート設置

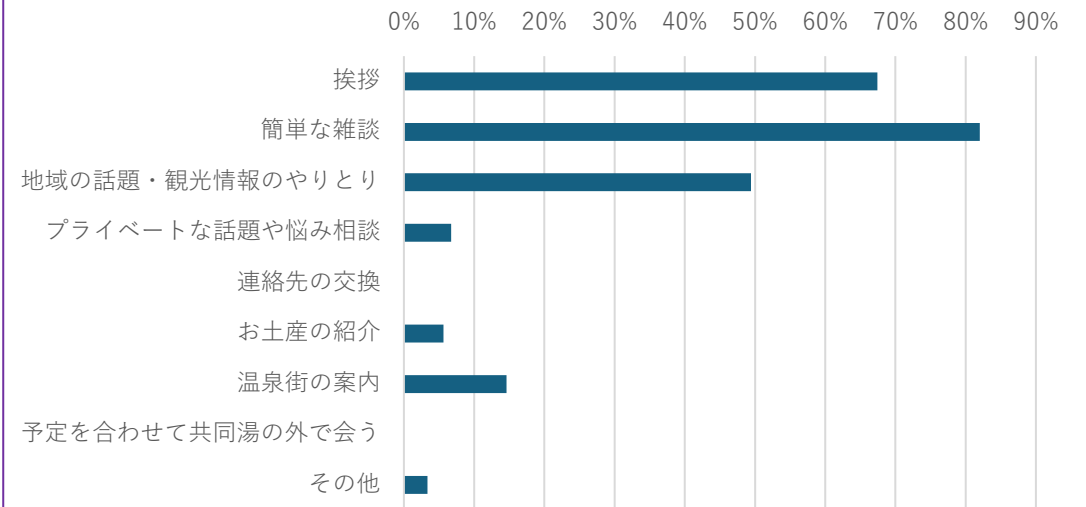
鳴子温泉郷における共同湯の実態（２）

12.これまで共同湯で地元住民と観光客と
交流をしたことがありますか



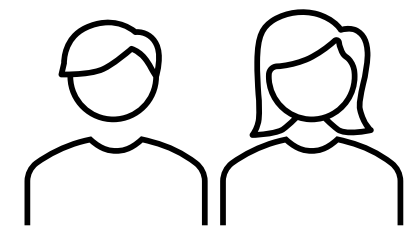
約 7 割が交流している

12. どのような交流をしましたか(複数回答)

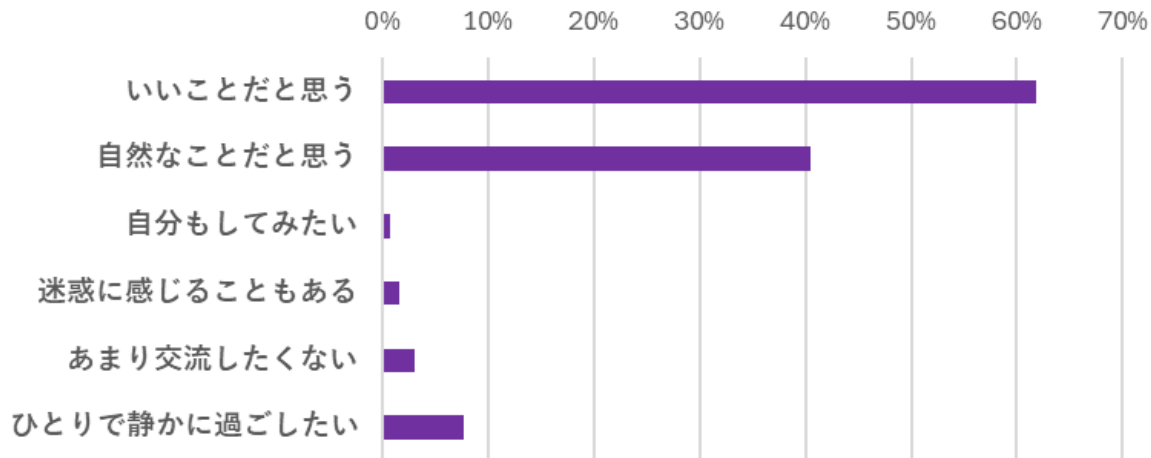


挨拶、雑談、地域の話が多い
深い交流はしていない

鳴子温泉郷における共同湯の実態（２）



13.共同湯で地元住民や観光客が交流すること についてどう思いますか



◆ 消極的・慎重な意見

静かに入りたいときもある
無理に話さなくていい
観光客側は肩身が狭いと感じることも

◆ 地域とのつながり

地域活性化につながる
愛される温泉の雰囲気を感じられる
また来たくなる理由になる

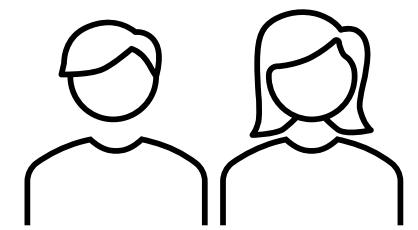
◆ 交流が楽しい・価値を感じる

会話が楽しい
人の温かさを感じる
旅の思い出になる

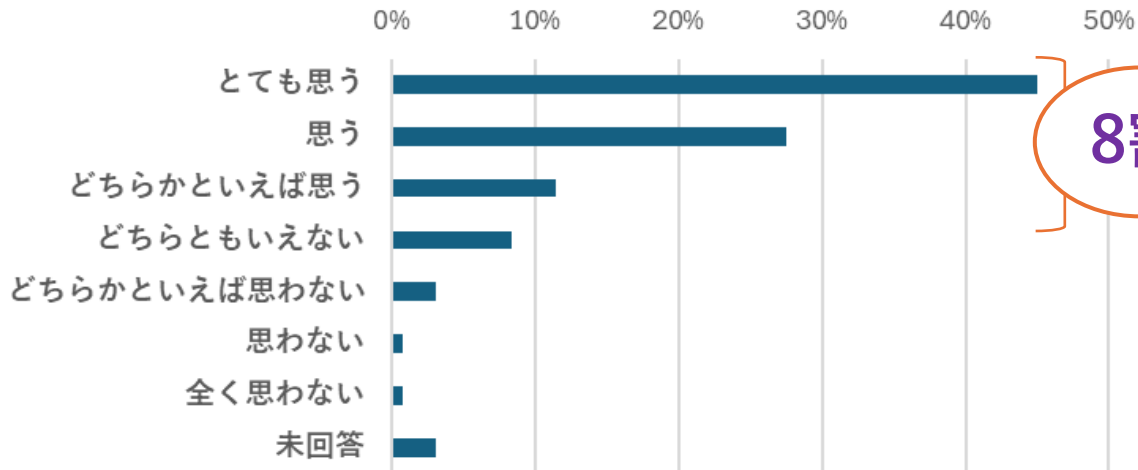
◆ 情報が得られる

地元の飲食店や観光情報を教えてもらえる
地元の人しか知らない場所を知ることができる
温泉や地域の歴史などを学べる

鳴子温泉郷における共同湯の実態（２）



14.地元住民と観光客の交流や交流の場が温泉地全体の魅力になると思いますか



8割

◆ 観光客のリテラシー

迷惑な方がいると魅力ではなくなるため**ルール作り**は大切

◆ 旅の楽しさ・思い出づくりにつながる

- 楽しい思い出はまた来たい理由になる
- 地元民との会話が**旅の思い出**を深める
- 会話が楽しければリピーターにつながる

◆ 情報が得られる・学びになる

- **地元のお話**を聞ける
- 歴史や湯質などを知ることができる
- **外の声を聞くのも良い情報**になる
- 旅行の話が聞ける

◆ 地域活性化・温泉地の維持

- **情報が広がる**ことで新しい人が訪れ活性化につながる
- 地元住民だけでは温泉地は維持できない
- 交流は**リピーター増加**につながる
- 観光地の存続には人と人との会話が必要
- 色々な人が来ることで地域が賑わう
- 旅行に行って、**その地域の魅力を周囲に宣伝**することにもつながる

取りまとめ

◆共同湯と地域とのつながり

各共同湯は機能や性格に違いはあるが、地域とのつながりを生む場となっている

◆交流の実態

約7割の利用者が何らかの交流を経験し、利用者の多くが共同湯での交流を肯定的に評価。
地元住民との交流により地域の温かさを感じ、**旅の思い出**となり、再訪のきっかけに。

〈共同湯〉

課題：観光客マナーやルールの整備、地元住民の観光客への意識など、
→各共同湯に合った交流のあり方と観光客のマナー周知の必要性



観光客と地域住民との交流を生み出す場
新たな交流の場として温泉地の魅力のひとつとなる可能性を持っている

鳴子温泉郷における ウェルネスツーリズムに関する研究

スリープツーリズムの課題と可能性

國學院大學 観光まちづくり学部 梅川ゼミ

小勝菜々子

温泉入浴後の睡眠は効果的で、かつ鳴子温泉郷を訪問する魅力になり得るのか

課題

消費者：眠れない
鳴子：差別化を図りたい

×

鳴子の魅力

- ・ 多様な泉質
- ・ 静かで自然豊かな環境



スリープツーリズムの可能性

ウェルネス市場

🌐 約945兆円 温泉は約9兆円
JP 約36兆円 温泉は約1.5兆円

スリープツーリズム市場

🌐 約11兆円
JP 不明（STの目的地1位は京都）

湯治の変化

からだの湯治から、こころの湯治へ

温泉をツールに市場拡大の可能性

実際に体験してみて

自身の睡眠の質も向上
宿泊者の睡眠の質も体感として向上

ウェルネスツーリズム：

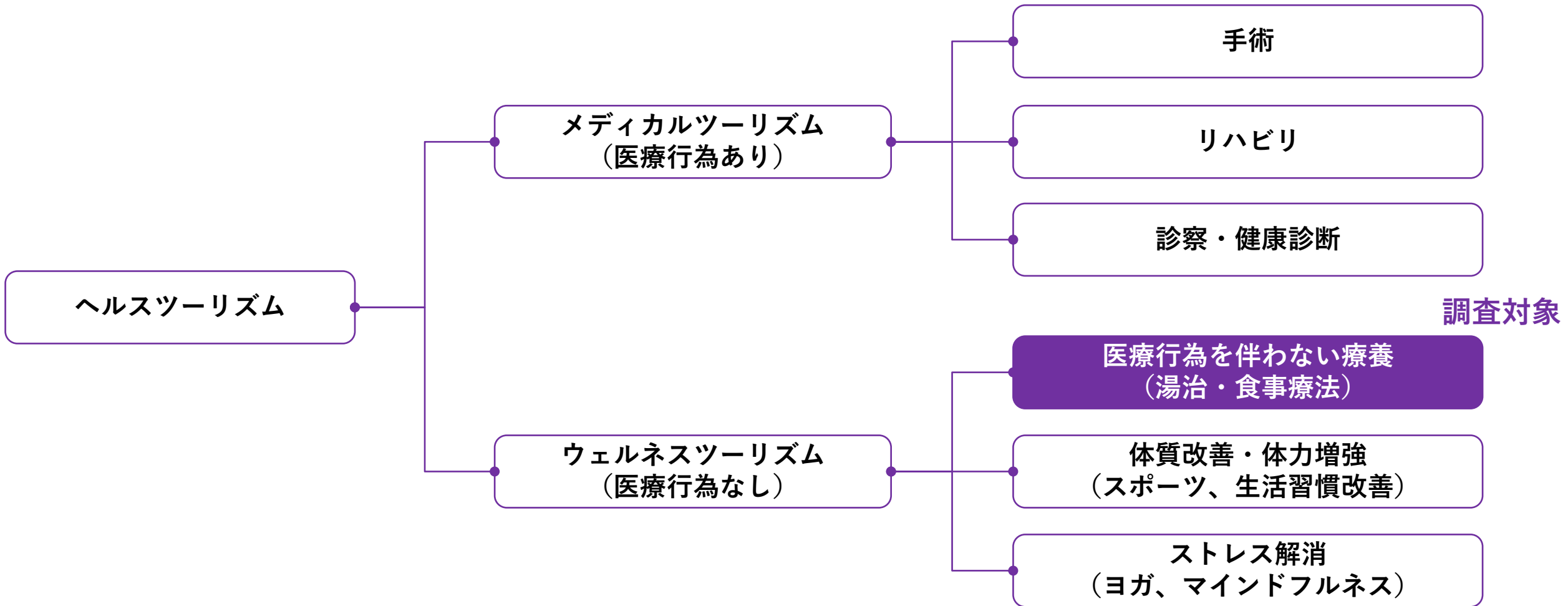
心身、感情、職業、知性、精神など人間の生活に関わるあらゆる領域を向上ないしバランスさせる旅行行動

スリープツーリズム：

ウェルネスツーリズムのなかで、旅行者が高品質な睡眠とリラクゼーションを旅の主目的として追求する新しい旅行形態

ウェルネスツーリズムとは

心身、感情、職業、知性、精神など人間の生活に関わるあらゆる領域を向上ないしバランスさせる旅行行動



東鳴子温泉は湯治宿が多く残る伝統的な温泉地



出典：鳴子温泉郷観光協会HP

①鳴子温泉 ②東鳴子温泉 ③川渡温泉 ④中山平温泉 ⑤鬼首温泉

東鳴子温泉

東鳴子温泉には湯治部を併設する宿が多く、長期滞在者の利用が多い。共同浴場や自炊施設が現存し、地域住民の利用も見られる。

泉質

重曹泉を中心に多くの泉質が存在。

歴史

平安時代に開湯したとされ、『延喜式』に鳴子が記録されている。江戸時代には奥州街道の宿場町として発展し、湯治宿が整備され、農閑期の長期逗留文化が定着。

アクセス

東北新幹線 古川駅から、陸羽東線 鳴子御殿湯駅（約40分）

旅行形態と睡眠改善に相関は見られない

旅館大沼での湯治と睡眠に関するアンケート

調査方法 : Google Formでの回答

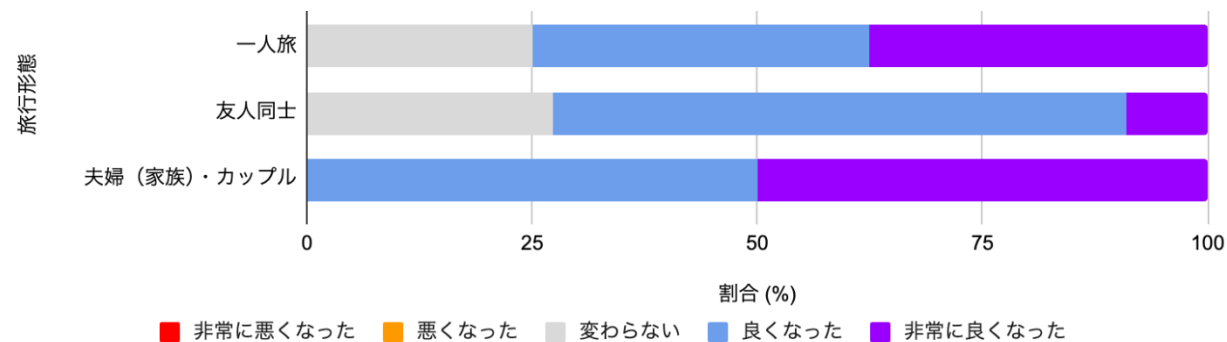
調査対象 : 旅館大沼で2泊3日以上滞り経験がある方

調査期間 : 2025年7月

有効回答数 : 43件

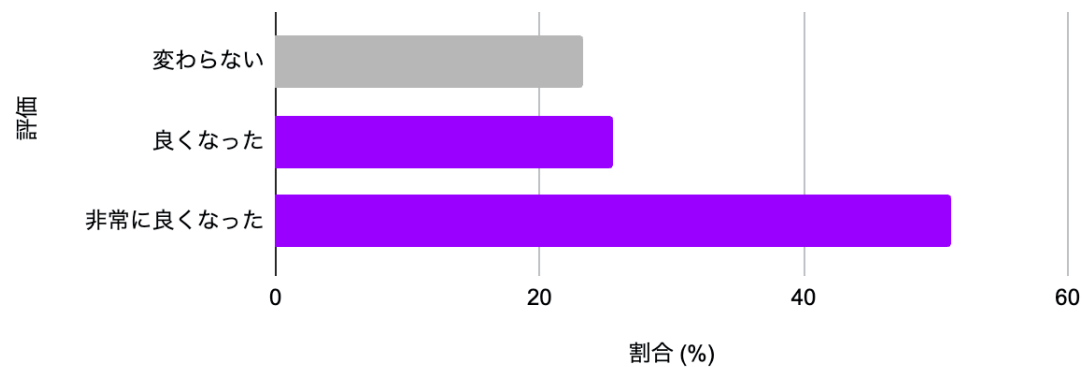
主な調査項目 : 基本的属性・大沼での滞在について（選定理由）・睡眠について（普段の悩み・睡眠の変化）

旅行形態 × 睡眠の質全体の変化

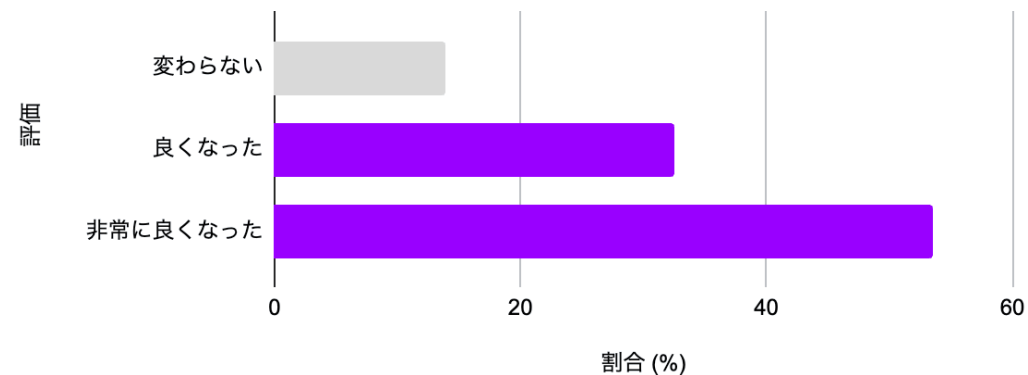


睡眠の質が高まったという感覚を得られた人が多い

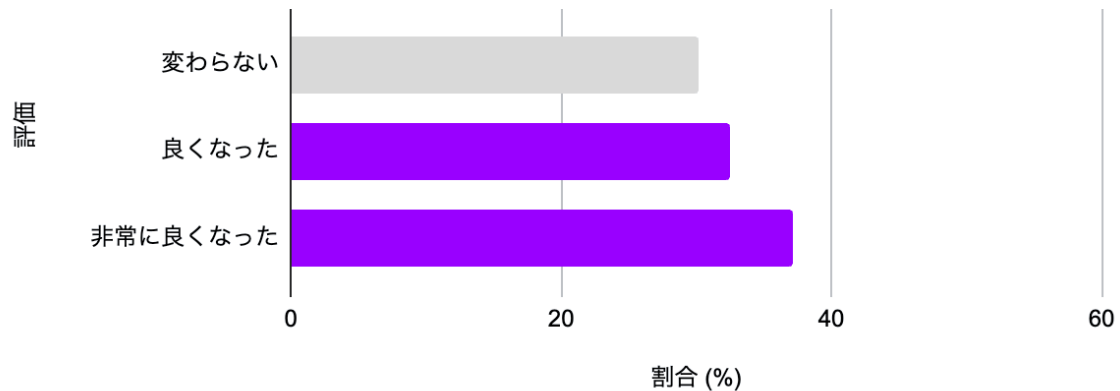
眠りの深さ



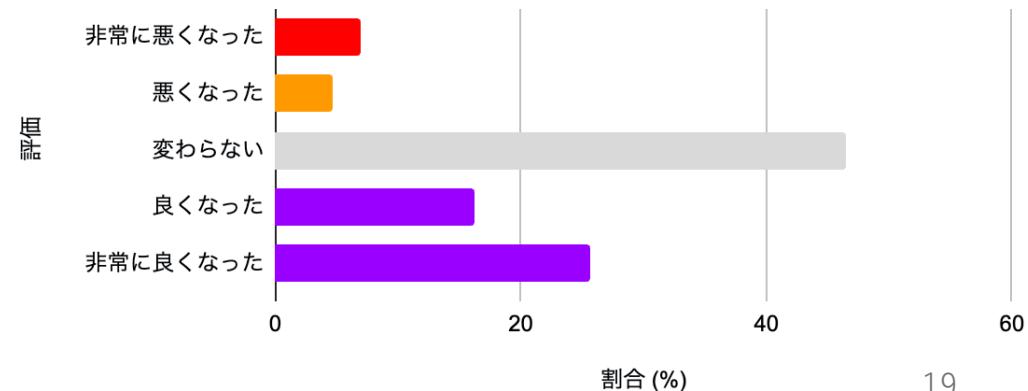
起床時のスッキリ感



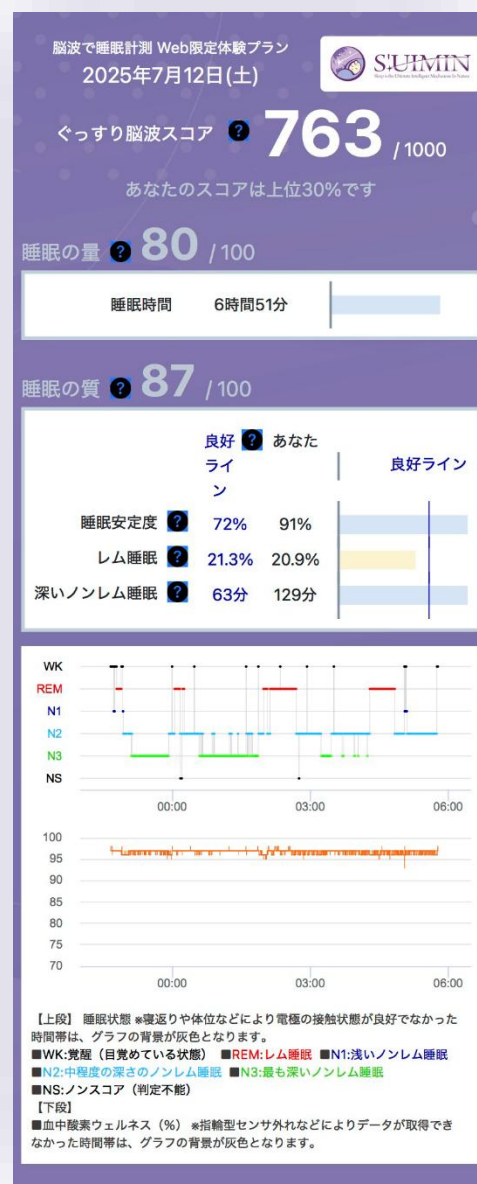
寝つきの早さ



夜中の目覚め



7日間の湯治で睡眠の質が大きく改善



総合スコアの変化 (ぐっすり脳波スコア)
+ 245点

睡眠の量
+ 20点 (睡眠時間 + 1時間13分)

睡眠の質
+ 20点

内訳

睡眠安定度 : 88% → 91% (+3%)
レム睡眠割合 : 13.2% → 20.9% (+7.7%)
深いノンレム睡眠 : 75分 → 129分 (+54分)

改善率

総合スコア : +47.3%
睡眠の量スコア : +33.3%
睡眠の質スコア : +29.9%

湯治とは、自然の温泉に入ることによって心身の癒しを得ること

からだの湯治

料理：自炊

滞在：数週間

農民は何度も温泉に入り身体を癒し、重労働の季節に備える

農家をはじめ、かつての日本人にとって馴染み深い暮らしに溶け込んだ湯治



こころの湯治

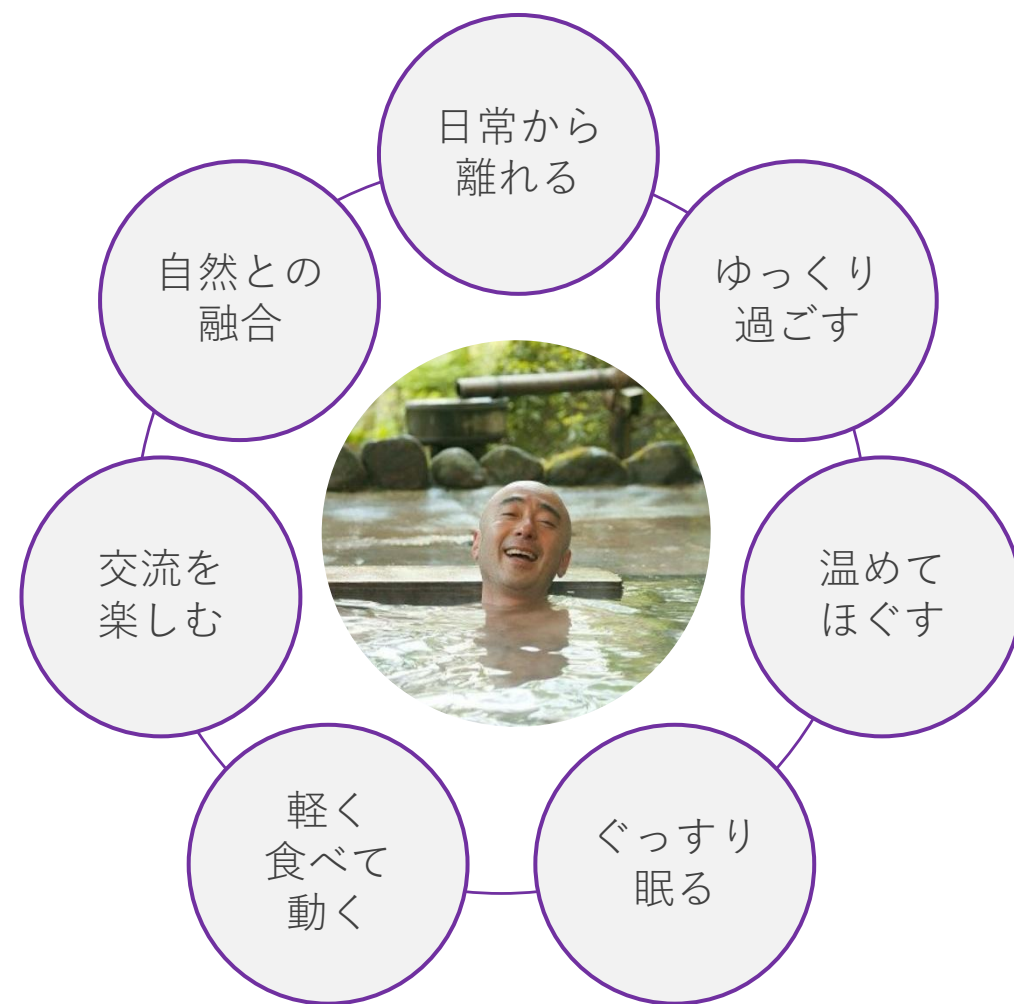
料理：食事付きプラン

滞在：数日間

温泉に入って静かに過ごし、たまに人と交流して身も心も休める

日常では得にくい、ゆっくりした時間

心身が休まる異日常の湯治



総括

観光まちづくり学部
梅川ゼミでは、様々な
分野・視点から温泉地
活性化の可能性を研究
しています

